

## 税があつての幸せ

八重瀬町立東風平中学校3年 大城 真莉衣

「チョコレートの原産国はどこかわかる人。」

中学二年生の最後の道徳の授業。先生は私達にチョコレートを配り、授業を始めた。ガーナでチョコレートの原料であるカカオを育てる幼い兄弟の話だった。病気で倒れた母の治療費のために、朝から晩まで働いても収入はわずか。カカオがチョコレートになることすら分からずにカカオを育てていると知ったとき、私は衝撃を受けた。兄弟は「学校へ行って勉強がしたい。でも、お母さんのために働かなければいけない。」と口にした。さらに衝撃を受けた。日本では、小・中学校が義務教育で、教科書や机など無料で提供される。また、就学援助という、国や地方公共団体が就学に要する諸経費を援助してくれる制度もある。医療機関を受診する際には、保険証を提示すると三割程の値段で受診できる。学校へ行って勉強すること、気軽に医療機関を受診できることは、当たり前だと思っていた。しかし、世界中にはガーナの子供達のように、学校へ行けず、重労働させられ、病気になっても医療機関を受診できない人がたくさんいる。このような状況の中、私達の生活は「税」があるからこそ、安全で安心して暮らせるのだと改めて考えさせられた。

道徳の授業をきっかけに、税金の使われ方について調べてみた。国民一人一人から集められた税金は、災害復旧、道路の建設や整備など、安全で快適な暮らしのために使われている。また、研究・開発などの将来のため、そして夢を叶えるための第一歩に税金があるのだと知った。税金は、国民のためだけではなく、発展途上国への物資援助にも使われているようだ。このように、私が日頃払っている十パーセントの消費税が、世界中の人の役に立っていると考えると、税を納めていることが誇らしくなった。

私は、税金のおかげで学校へ通えて、勉強や部活ができて、大切な友達と出会うことができた。道徳の授業・税について調べている中で、私には新たな夢ができた。たくさん稼いで、たくさん税を納めること。そして、貧しい国の人達に資金を提供できたら良いなと思う。今の私は、学校へ行って勉強をして、知識、社会性を身に付けることが夢への第一歩になる。このように、夢に向かって頑張る毎日こそを「幸せ」と呼ぶのだろう。だから私は、税金がつないでくれた、この「幸せ」を無駄にしないために、夢を叶えるために、今日も机に向かう。私を感じる「幸せ」を全ての人に感じてもらう日を信じて。